

第61回「前島密賞」受賞

ネットワーク開発部の杉山 一雄氏，無線アクセス開発部の前原 昭宏氏，移動機開発部の二方 敏之氏は，「標準化への積極的貢献による高音質・高効率なVoLTEの早期実用化」への功績が認められ，2016年3月18日に公益財団法人通信文化協会より第61回「前島密賞」を受賞しました。

前島密賞とは，通信事業の創始者「前島 密」氏の功績を記念し，情報通信および放送の進歩発展に著しい功績があった者に，公益財団法人通信文化協会より授与されるものです。ドコモは，昨年の「LTE対応の超小型基地局『Xiフェムトセル』の開発」に続いての受賞となりました。

受賞対象となった「標準化への積極的貢献による高音質・高効率なVoLTEの早期実用化」は，ドコモの

標準化策定への積極的な関わりにより，それまでデータ通信のみを対象としていたLTE方式での音声サービスを実現させるもので，2014年6月に国内で初めてVoLTEサービスを開始させることができました。

高速なモバイルデータ通信を提供するLTE方式はベストエフォート型のパケット交換のみを対象としているため，従前のVoIPの手法では，音声の所要QoS (Quality of Service) を満たすことは困難であり，従来の回線交換に比べて周波数利用効率も向上できないなどの課題がありました。そこで，LTEの標準化機関(3GPP)において，QoSを保証し，かつ高効率な音声伝送を実現するVoLTE (Voice over LTE) の国際標準仕様作成をリードするとともに，国内初のサービス開始と早期普及に尽力しました。また，音声品質向上のため，従来の3G方式のエリアへ移動しても音声が届くことなく継続する方式 (SRVCC: Single Radio Voice Call Continuity) などの標準化を提案，議論をリードし，これらを導入当初から取り入れることで非常に安定した音声サービスの提供を実現しました。

以上のようにVoLTEの実用化において，国際標準仕様作成をリードするとともに，国内初のサービス開始と早期普及への尽力により，安定した音声サービスの提供を実現した功績が認められ，今回の受賞となりました。

